

高校生と創る演劇

Journey Over the Rainbow

—ドロシーとワタシ—

2024 11.2 土 3 日 祝 4 月 休

報告書





旅のその先へ

作・演出・振付 下司尚実



旅は人を成長させる。という言葉を聞いたことがあります。日常から離れて過ごすことは、自分を見つめ直したり、いつもと違う刺激を受けたり、いつもと違うから素直になれたり、様々なことが起こります。その時間はふとした時に道標や支えになるような、何にも変えたくない特別なものになります。今思えばそんな願いを込めて『Journey Over the Rainbow』というタイトルにしたのかもしれない。私は教師ではないし、成長させるぜーと臨んだのではなく、そうだったらいいなあ。ふと立

ち止まった時にぼうつと光るような、お守りのような時間になったらいいなあ。」という思いながら本を書いたように思います。学生割引のありがたさを使えなくなつてから理解するように、恵まれていることは失つてから気づくことが多いです。PLATという劇場でプロにサポートされて舞台上立てること、舞台と同じ広さで長期間稽古ができること、公演に向けてボイトレの先生が来てくれること、それらの経験が無料で享受できること、それがどれだけでもとかわかつてくれ！とも思いますが、そんなことより伝えなくてはいけないことは「本気でこの時間を一緒に過ごそう」ということでした。本気、と言うのは易いですが、その言葉の側には努力！根性！みたいな雰囲気があつて、今には合わないものがあるかもしれない。そして私と高校生たちは生きていく時代が違います。私は舞台に関わることで生活していますが、彼らは学校の時間もある稽古です。いつもと違う環境はどうしても心浮き足立つものです。達成感が成長させることもあるけれど

満足はしてほしくない。バラバラな私たちが何か一つのものを目指すのはどうしてさ、不器用さ、全てひっくるめて作品のその先へ、お客様に見て良かったと思える時間をつくること。稽古が本格的に始まった頃、そのゴールは遠くに感じられました。とはいえ絶望はしていません。帰ると頼もしい仲間、渡辺さん、政岡さんと夜な夜な打ち合わせをし、どうしたらみんなが輝くか、どんな言葉がけたらいいか、うんうん唸りながら話し合える時間があつたからです。人じゃないって素晴らしい。それは高校生のみんなもそうであつて、少しずつ、人ずつ、私たちの言葉に反応して変わっていく仲間を見て、稽古場にいる時間、稽古場に来るまでの時間を大切にしてくれる人が増えていくのを感じました。自分のセリフ、相手のセリフの聞き方、物語では何が起きている？今稽古場で何が進行しているのか、瞬間にアンテナを張り、責任を持つこと、そうして高校生が少しずつ仲間になってきてくれていることが嬉しかったです。

どうしても壁にぶち当たったり、悔しかったり苦しいことは沢山あるので、なるべく楽しい稽古をと心がけていました。けれど楽しい優しい時間はあつという間で、ふと顔を出してくる思い出は苦い物だつたりします。不思議ですね。しばらく経つてみんなが思い出すものは、私の苦言だつたり、何かの悔しさかもしれません。でもそれは本気だつたからです。こんな悪いことばつか思ひ出す自分が嫌だと思わず、一生懸命やっただと噛みしめて欲しいです。人生で生懸命やつた時間は、振り返ると花火のように眩しく悔しいものです。登場人物たちは物語で、みんなは劇場で、旅して今は日常を送っています。日常も日常で大変だよ。うましくないこと、沢山あるよね。ひとりだけでは辿り着けない場所へ私たちは立つたから、その灯火がふとみんなを応援してくれたいと思います。



創作は山登り

演出助手

渡辺芳博



創作の過程は山登りみたいなものだ。そしてそれはまだ誰も足を踏み入れたことがない山だ。山頂が作品の目指す方向であれば、そこまでの道はみんなで一緒に切り開いていくしかない。そのため沢山の言葉をみんなに投げ掛けたと思う。ときには演技の例として、動いて示すこともあったが、必ず言葉で振り返るように心がけていた。一緒に作品を創るにあたって、特に今回の企画においては、それぞれ一人一人に伝わる言葉を探し続けながら山を登っていくことが必要だと感じた。私が「こつちだー」と方的に叫んで山の中をどんどん進んで行つたところで、みんなを置いてけぼりにしているかもしれないし、気づけば迷子になつているのは私かもしれない。演劇との付き合い方(演劇を続けていきたい)この企画で区切りする/初めて演劇に触れる(など)の違い、年齢(世代)における価値観、そもそも歩んで来た人生はみんなそれぞれ違う。私も違う。だからお互いに言葉を探し、伝え合い、それを重ねながら進んでいくしかない。

草をかき分け、岩をどかし、崖を登り、ときには手を繋いで川を渡りながら進む。障害を乗り越えて目の前に広がる風景を見ては喜び、再び次の障害に出会えばまた一緒に試行錯誤とにかこの繰り返し。今までは違う感覚や感情、運動、思考を発見していく。この発見する喜びを共有したくて、私はみんなへの言葉を探し続けていたんだと思う。そして全ての公演が終わり振り返ってみれば、道ができていたのではないだろうか。一人一人、道の形は違つただろう。もちろん私には私の道があつた。その道中で沢山の言葉に出会えたことを改めてありがたく思う。さて辿り着いた山頂の先には、また次の山が見えているかもしれない。もしかしたら、海に向かうの島かもしれない。今回の企画で届んだ言葉も手掛かりにして、どんどんチャレンジしていくぞ。そこで出会った新たな言葉も貪欲に飲み、沢山の言葉が詰まったあなたの人生となることを願っている。

演劇で救われようとする高校生たちの多さに驚いたのが始まりでした。あくまでも受動的に、この企画に参加さえすれば何かしら自分に得になることが起こつて、何かしら楽しい時間が得られて充足感で満たされるのではというような、演劇を志す若い人たちとの出会いにワクワクしながら豊橋にお邪魔した私は、高校生は私たち大人よりもよっぽど窮屈で生きづらいんだなと同情しつつ肩を落としてしまいました。稽古場で度々直面したのは高校生たちの「待ち」の姿勢でした。演出家の手取り足取りやらなにに進まない創作、自分で考えることが出来ず、まるでお客様になつていての姿勢に、私は学校教育の限界を感じました。余計なことをすまじ、無駄を出すすまじ、恥をかきまいと真面目に言われたことだけをこなす姿が彼らの生来のものでないことは明らかでした。しかし公演をする以上、責任は舞台上に関わる全員に発生します。人様のお金や時間を頂戴するという現実的な面は勿論ですが、

劇場空間のパワーを痛感

振付助手

政岡由衣子



舞台上立つた瞬間急にかつてくるあの特殊な時空間への責任、今回の険しい創作過程でやつと光明が見えたのは舞台稽古でした。舞台という特殊な空間にあるという間に飲み込まれた高校生たちは、恐らく無意識にこの空間への責任を果たそうとして頑張つたのだと思います。この頃にはスタツフの高校生たちの参加率もグンと上がり、劇場空間が持つパワーを痛感しました。結局先生でもない私に至つては役者ですらない私から彼らに与えられるものは何一つ無く、ただただ少しは気持ちの分かる経験者として作品を共にするくらいなものでした。高校生たちに向き合つよう、自分の尺度を疑い続けたい日々。唯の希望は生きていればまた会える、というだけです。何を運んだにせよ選ばれたにせよ、皆さんきつと元気でまた会いましょう。



◆ドロー
亀井潮音

私は、「魔法」が使えるようになりたいです。理由は、ほうきで空を飛んだり、動物とお話をすることができたら、普段の生活がもっと楽しくなるし、素敵だなと思ったからです。そして、魔法の力を使い、困っている人を助けたり、願いを叶えることができれば、たくさんの人を笑顔にすることもできると思っています。



◆ライオン
中村光里

魔法使いになりたいです。困っている人をこっそり助けられるし、悲しいことも楽しいことに変えられそうです。魔法の力を使って動物ともお話をしてみたり、ドローが夢見た虹の向こうの空高くに行ってみたり！魔法使いになって、世界中が幸せになれるようなことをしたいです！

Shione Kamei

◆楓(カエデ)
鈴木晴日

過去に行きたいです！私はもともと後先考えずに決断することが多かったり、周りを気にしすぎて行動できないことがあります。なので過去の自分に会いに行きたいです。そして、「もともと自信持てよ!!」と声をかけたいです。さらに劇場に行くと、昔の演劇をたくさん見たいです！

◆優希(ユキ)
中川七海

今の記憶を持たず生まれ自分の人生をやり直してみたいです。自分の選んできた道を正解にすることが人生の目標だけど、もし違う選択をしてた世界線の16歳の私も見てみたいから。あと、16歳の記憶を持ったまま、1から始めたら人生双々楽しそうなので、勉強とかで天才児扱いされたいです！



Haruhi Suzuki

◆芽衣(メイ)
横山さや

いろいろな楽器を演奏できるようにになりたいです。昔から音楽が大好きで、歌うことも演奏すること両方とも好きでした。小中学校と、吹奏楽部に入っていたのですが、なかなか上手く演奏できず、悩んでいた日々が続いていたので、いろいろな楽器を演奏できる人に強くなりたいです！



Haruna Mizunashi

◆北の魔女、野ネズミ、門番など
水梨遙菜
私は眠きをお願います。体を発光させたいというわけではなくて集団の中が対面で話している時に、「なんかマアの人素敵だな」と思わせられるような、内面の輝きが欲しいです。そしてそれを十分に活かせるように頑張りたいです。



Hideki Ishida

◆空奏(ソウ)
石田英輝

ひとつだけ願いが叶うなら、僕は世界中の言語を知りたいです。理由は突然「どこへ行く」ことが遠くへ行きたい」と思っても、世界中の言語を話すことができれば、言葉の壁を気にせずにどこか遠くへ行けるからです。またこれによって自分自身の世界が広がります。今まで見てきた景色が変わる可能性も秘めているからです。

「ひとつだけ願いが叶うなら 何を願います?」

出演者紹介



Kouma Tsuzuki

◆プリキ
都築幸真

僕は七色の声が欲しいです。好きなように空を遊ばせたい。変えられる力と、迷いましたがごちやにします！演劇をやるのが声に聞かせる仕事をしていくなりたいです。いろいろな作品を見る上で、あんなかっこいい声出せたらなあとか、個性的で耳に残る声いいなあとか、演劇をやるのもいろいろな役を演じることができると七色の声に憧れます！



Aoi Funahashi

◆マンチキン、
野ネズミの女王、合宿所の人など

私の願いは家族全員で旅行に行くことです！小学生の頃は毎年旅行へ行っていました。今は私も兄弟も忙しく予定が合わないのと、父と祖母が天国にいらして二度と全員揃って行けないので、もし叶うのならまた昔みたいに旅行へ行きたいです。家族全員揃って美味しいものをたくさん食べてくたらないでほしいです。



Sara Kamiya

◆マンチキン、
山猫、おばあさんなど

私は一度覚えたことを忘れないような記憶力を願っています。学校の勉強で覚えることがたくさんあるので、一度覚えたことを忘れなければきこテストで高い点数を取ることができると嬉しいです。また、楽しかった、嬉しかった思い出や経験をいつまでも忘れないからです。



Rei Kitano

◆律(リツ)
北野 黎

記憶を持って過去に戻りたいです！様々な後悔を過去に戻らないうちに、勉強やスポーツ、早起き、そして演劇に、毎日全力で生きてみたいです。また、後悔は、これからは過去に戻りたいと思える瞬間があるでしょう。でも、これからの後悔の中で、(1)通ったのは、全力でやりましょ (2)通ったのは、全力でやりましょ (3)後悔したくないです。



Kanon Funahashi

◆カカシ
舟橋叶恩

自然災害がなくなつてほしいです。特に地震がなくなればいいと思います。これからは起きると言われています。南海トラフがとも怖いです。私は心配性なので、その可能性がある限り、安心して眠れません。怖くて、いつも夜中に起きてしまいます(泣)。その心配もなくなればはくつすり眠れるのになぁと思います。



Kanon Yokoyama

◆マンチキン、幸田コチ、おじいさんなど

身長プラス20センチ!! せめてみんなと同じ目線になりたい。狭いところに入り込めたい。小回り効くのはいいけど、いつも見上げて目が痛いし、高いところにも手が届かなくて不便！特に足を長く！スタイルよくなりたいです。既身長もチャームポイントだと思っているけど、やっぱり背が高くていいかな。



Mai Tsuchikura

◆音楽隊
土倉真衣

動物とお話できるようにしたいです！自分たちが勝手に動物を話りにしてしまっているけれど、感情やライオンが出てくるように動物にも感情があるから、きっと見えてくる世界も、考えたいことも人間と同じようにみんな違うと思うので、たくさん動物たちとたくさんお喋りしてみたいです！



Asahi Kaneko

◆音楽隊
金子あさひ

空を飛べるようになりたい！人混みや移動時間に、もし今空が飛べたら一人なんだろうなって思うことがあってのひのひ羽ばたきたいです。空を飛びたい！って思いました。もし飛べるようになったらいろんな場所で仲間が増えてほしいです。一緒に旅をしてみたいです！

2月4日[日]	募集開始	
4月26日[金]	オーディション申込締切 キャスト希望20名、スタッフ希望1名、計21名の応募があった。	
5月18日[土] 19日[日] 26日[日]	ワークショップオーディション ◆18日、19日の第1回オーディションではシアターゲームや身体を使って表現するワーク、短い言葉を用いて会話のエチュードを発表し合った。 ◆26日には参加者全員が描いた、動物のエチュード、ダンス、短い戯曲の読み合わせを行った。このワークショップオーディションを通して、出演者13名、音楽隊2名、スタッフ4名(後日応募1名含む)の参加が決定した。	
7月28日[日]	タイトルが「Journey Over the Rainbow -ドロシーとワタシー-」に決定!	
8月13日[火]-15日[木]	夏のプレワークショップ 初日の午前には、アートイラストレーターの田村かのこさんをお招きし、異なる背景を持つ参加者と一緒に作品を創る際のコミュニケーションの取り方についてみんなで考えるガイダンスを開催。 初日午後からは演出の下司尚実さんのワークがはじまり、シアターゲームを中心としたアイスブレイクや、筋トレなどの舞台上立つための身体づくりを実施。また、音楽家の棚川寛子さんによる、テーマから音楽を作りアンサンブルを奏でるワークショップも行った。	
8月22日[木] 27日[火] 31日[土] 9月18日[木]	自主稽古開始 ボイストレーニング実施 チケット発売開始 チラシ・ポスター完成	
9月23日[月・祝]-29日[日]	1週目	
9月30日[月]-10月6日[日]	2週目 ◎6日(日)、関連企画 まちなか図書館トークイベントを開催	
10月7日[月]-13日[日]	3週目	
14日[月]-20日[日]	4週目	
21日[月]-27日[日]	5週目 ◎26日(土)には、関係者を招いた 公開通し稽古を開催	
28日[月]-11月1日[金]	6週目	
11月2日[土] 3日[日・祝] 4日[月・休]	◆13時・入場者94名 / 18時・入場者71名 ◆13時・入場者128名 / 18時・入場者111名 ◆13時・入場者131名	
2025年 3月10日[月]	本番映像上映会	◎総入場者数535名

稽古 第1週目

●9月23日(月祝) - 9月29日(日)

高校生だけで行われた計10回の自主稽古を経て、いよいよ本稽古がスタート。
自主稽古の最終日に配られた台本を持ち寄り、配役を入れ替えながら何度も読み合わせを行った。作品全体の流れやイメージを捉える時間となった。三日間にわたって読み合わせを中心の稽古が行われ、25日に配役が決定した。
今回の作品は、生演奏や合唱などの音楽要素が多く用いられているのが大きな特徴。日々ルーティンとして、作中で歌われる「Over the Rainbow」をパートごとに分かれて歌唱練習を行い、稽古に励んだ。27日には音楽の棚川さんが稽古に参加。自主稽古期間中に高校生たちが「オズの世界」「戦い」などのテーマを基に作ったアンサンブル曲を発表し、その後、作中の音楽づくりに着手した。

稽古 第2週目

●9月30日(月) - 10月6日(日)

配役決定以降の稽古では、立ち稽古が進んだ。舞台セットとなる多数の椅子や机を転換しながら物語は進んでいく。その配置や段取りを、実験しながら創作する時間となった。演出チームと出演者間で、シーン稽古中に危ない部分はなかったかを確認し合い、本番で事故が起こらないように綿密に注意しながら稽古が行われた。ま

稽古 第4週目

●10月14日(月祝) - 10月20日(日)

た、演出の下司さん、振付助手の政岡さんを中心に、物を動かす時の身体の見せ方や舞台上での居方など、身体の見え方について、細かく演出がつけられていった。
一方、稽古と並行して、今回舞台美術を兼ねる演出助手の渡辺さんと、高校生スタッフによって、小道具大道具づくりが進んでいた。木材のヤスリがけや、小道具のトモコシコシなどで、高校生スタッフが舞台づくりを支えた。4日、5日にはもう一度棚川さんが稽古に合流。オズの世界の劇中音楽が作られていった。音楽が加わることで、場面の臨場感が増し、出演者たちの演技にも、層が加わった。

稽古 第3週目

●10月7日(月) - 10月13日(日)

シーンを立ち上げる稽古と並行して、第2週目に作られた音楽の稽古にも熱が入る。音楽隊の二人を中心に、アンサンブルの精度を高め、演技とのタイミングや音量バランスを調整した。8日には新田さんによるボイストレーニングの2回目が行われ、この週で音楽、合唱部分のブラッシュアップされた。音楽、合唱部分の全体要素が見え、シーンも日々立ち上がっていくなかで、高校生たちは互いに声を掛け合いながら、確認や復習の時間を見つけていった。
演技面に関しても、俳優である渡辺さんを中心に、登場人物の心情の動きをどう考えていくのか、役作りについての課題をそれぞれが考えながら日々の稽古に臨んだ。13日には翌週の粗通しに向けて、ラストまでのシーンづくり

稽古 第5週目

●10月21日(月) - 10月27日(日)

アートスペースでは22日から舞台美術・音響照明の仕込みが開始した。舞台セットや転換の多い作品のため、少しでも舞台上に慣れるように、翌日23日より舞台上での稽古がスタート。本番

稽古 第6週目

●10月28日(月) - 11月1日(金)

の会場であるアートスペースでの稽古初日は、まず舞台監督によって舞台上の説明を受けた。高校生たちは実際に観客が入る空間に立ち感じたことにより、自分たちの演技演奏が作品の基盤となることを再確認し、集中力と士気が高まっていた。高校生スタッフは、転換やオズの顔の操作、早着替えの補助など舞台を支える。26日までは照明・音響を中心とした各シンのチェックを行い、午後に家族や友人などの関係者を招いての公開通し稽古を行った。

最終週。早く稽古場入りできるメンバーでの場面稽古を行い、より良いシーンになるよう最後まで演出がつけられていった。稽古時間には、場面転換の確認や、音楽の生演奏との合わせ、照明・音響と演技との調整が細やかに行われた。並行して、高校生スタッフを中心に、ラジオの生出演や、SNSの告知動画の撮影、ホワイエの装飾づくりなど、広報や公演準備も本格化した。11月1日にはゲネプロが行われ、本番同様の環境で最終確認を行った。最後まで妥協することなく、集中力を高めながら本番に臨んだ。





Journey Over the Rainbow

高校生と劇団楽奏
—ドロシーとワカシ—

舞台を創るうえで欠かせない高校生スタッフ。各自、得意なことや興味のあることに積極的に取り組みました。

今作は舞台美術の転換や楽器演奏、合唱、衣裳の早替えなど様々な要素が盛り込まれた作品だったため、広報や稽古のサポートのほか、公演に直接関わる仕事も担当しました。

「ひとつだけ願いが叶うなら何をお願いする？」



スタッフ紹介

寺西菜々子

あらゆる楽器を演奏できるようなりたいです！以前、グループで曲を作ろうというお話が出た際、音楽ができる子が中心になってイメージに沿った音楽を想像する様子が多かった！と憧れを抱きました。

千葉心愛

もしも、ひとつだけ願いが叶うなら私は絵本の中に入りたいです。絵本の中には常に夢と希望が溢れています。そんな世界に私も入ってみたいと思っただけです。そして絵本の中に入ったならどんな場所、どんな職業、どんな人間関係を知らないです。今の瞬間も私たちが想像もできないような暮らしが、世界のどこかにはあります。絵本の中に入っているような見方を知らず、これからは生きていく教訓にしていきたいです。

丹羽菜々花

お金が欲しいです。才能などは自分で開花させたいタイプなので単純に物でいいはやはりお金。貯金して、欲しいものを買ったりライブに行ったり演出したりしたいです。

富田圭亮

ドレーンと一緒にタイムマシンに乗って、自分のミライを知りたいです。介護福祉士になつていて、6年後の自分がこの事業所に就職して、自分がどのようになっているかをドレーンと一緒に見てみたい。ドレーンと一緒にミライを見て、自分の夢の創造に向けて歩を進めたいです。

Nanako Teranishi

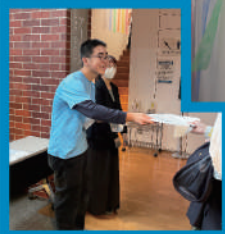
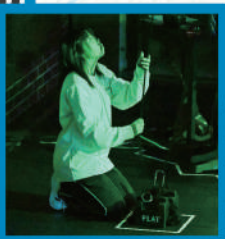
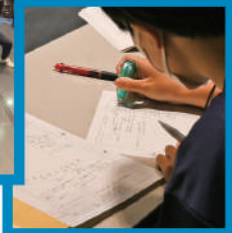
Cocoa Chiba

Nanaka Niwa

Keisuke Tomita

STAFF WORK

スタッフワーク



楽器演奏

高校生スタッフ2名が音楽隊として舞台上立ち、楽器演奏をしました。音楽の棚川さんと一緒にシーンに合わせた曲を作ったり、マリンバやフルートなど20種類以上の楽器の演奏、合唱の伴奏を担当しました。

稽古記録

稽古の内容や大事なポイントを記録。振り返りに活用したり欠席したキャストに共有し、スムーズに稽古が進められるようアシストしました。

SNS (Instagram)

日々の稽古の様子をInstagramに投稿して広報をしました。その日出席したスタッフが交代で担当しました。

広報映像製作

映像製作ができる高校生スタッフが広報用の映像を撮影、編集しました。プラットフォームの公式YouTubeチャンネルにアップされています。

小道具づくり

演出助手の渡辺さんの指示のもと、小道具づくりを手伝いました。デザインから任せられることも。自分が作った小道具が舞台上で使われているのを見てやりがいを感じました。

衣裳

衣裳の高永さんと一緒に既製服を早替え仕様になりました。本番中は早替えのサポートもしました。舞台の衣裳は様々な工夫がなされていることを知り勉強になりました。小屋入り後はキャストが着た衣裳を毎日洗濯し、衣裳の管理を行いました。

照明

照明の小松さんに舞台照明のことを一から教えてもらい、公演ではピンスポットの操作を担当しました。プロの照明の作り方を覚えることは貴重な経験になりました。

舞台装置の操作

舞台監督の筒井さんと舞台監督助手のみそくちさん補助のもと、舞台装置の操作をしました。舞台美術が吊られたバトンを上げ下げしたり、重要なシーンで舞台上の扉の開閉を担当し、本番中も大活躍でした！

ホワイエ装飾

来場したお客様に楽しんでいただけるよう、「Over the Rainbow」にちなんで虹色のリボンを飾りました。

フロントスタッフ

公演当日受付に立ってパンフレットを手渡し、お客様をお出迎えしました。



1

5月のオーディション ワークショップについて

●身体を動かすのと同時に頭もフル回転させることが大変だったけど、場の雰囲気や良く楽しめた。オーディションなのに一人一人にアドバイスしてくれたのがうれしかった。

●演技の基礎や感情の解放など学ぶことがたくさん詰まったオーディションだった。オーディションワークショップだけでもいろいろなことが学べて勉強になった。

●想像力を働かせるワークなどバラエティに富んだオーディションワークショップで新鮮だった。

1

		オーディション				
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	2	1	0	0
スタッフ	日時	4	1	0	0	0
キャスト	内容	12	1	0	0	0
スタッフ	内容	4	1	0	0	0

※スタッフ=1名不参加

2

		夏のプレワークショップ				
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	3	0	0	0
スタッフ	日時	4	1	0	0	0
キャスト	内容	9	3	1	0	0
スタッフ	内容	4	1	0	0	0

※スタッフ=1名不参加

8月のプレワークショップについて

●シアターゲームがおもしろかった。自分と他の者の身体を意識するミニセッションに繋がるワークは良い経験になった。音楽のワークショップでは、音楽作りが苦手でも楽しめる内容で前向きに取り組めた。みんなで作るから創作することの楽しさを知ることができた。

●3日間とても充実した時間だった。難しいワークもあったけど、少しも舞台上に役立つことならと思い頑張った。大人スタッフの配慮が優しくて気持ちよく臨めた。

●稽古開始の1カ月前に、必要な技術をきゅんと凝縮して学ぶことができた。つづいて作品創りに繋がっていて、より稽古へのモチベーションが上がった時間だった。

●初日のミニセッションデザインの講習を受け、みんな話して話したり、OSSのハンドサインを考えたりと、全員が心地良く舞台を創るためにはどうすれば良いのか、改めて考えることができた。ワークショップの最初に日筋トシから始まるのは良いルーティンになったと思う。またヘアの相手を感じながら身体を動かしたり、トランプを使ったエチュード、

「おむすびころり」の演出など、他者のことを考えながら表現することが多く、難しいこともあったが楽しかった。堀川さんの音楽のワークショップでは、楽器がない状況でたくさん楽器を使ってみんなが音楽を作ることに挑戦しておもしろかった。

●スタッフとして参加したが、キャストと一緒に取り組むことで学べることがあった。音楽に

5 本番について

5

		本番について				
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	満足度	8	3	2	0	0

●今回の努力の集大成で、忘れない時間だった。お客様の熱を感じながら毎公演今までの一番良い舞台にしようと思った。カーテンコールでは胸が熱くなり努力が報われた瞬間だった。

●各公演でお会いするお客様は一期一会だと思っていて、とにかく今できる最高の楽しい舞台を見てほしいという気持ちで楽しんでいることができた。

●本番はただひたすらに楽しかった。お客様の反応が見えてそれがエネルギーになり、演技や合唱力が上がった。

●全公演あここの間だった。公演を終えても次の公演までにもっと良くしようと考えていることができてよかった。

●トラブルもなかったけど、みんな乗り越えて千秋楽を迎えられた良かた。

●本番中に体調不良になり、周りの人にたくさん助けをもらった。決して一人にせず寄り添ってもらえたから最後までやりきれた。

●初日は良かったけど、二日目には慣れが出てきて空気が緩くなってしまった。演出チームは態度修正やアドバイスをくれて本気で向き合ってもらえた。高校生は本番前の声出しをやらなかったり、おしゃべりしたり遊んでいて本当によ

3 9月の自主練習について

●触れたり、演出を体験したりと充実した内容であったという間の3日間だった。

3 9月の自主練習について

3

●筋トレ、ダンス三種類、音楽作り、「Over the rainbow」の合奏の課題があり、出席者が多い方が取り組むやすさが多く、出席率が低い日はなかなか大変だった。しかし、みんなの課題にも真剣に取り組んでいた。筋トレでは毎回これこれそうなるが、みんなが得意な人が苦手な人に教え、音楽作りではチーム内で試行錯誤して、他者と協力することが多い自主稽古だった。そのため、みんなと絆を深めることができてとても良かった。

●みんなで声を掛け合ったり、自分がリーダーの日は自主練習の内容を考えて、だれることなく自発性を持って取り組めたように思える。力を合わせて課題に取り組む中で、仲間との絆やこの企画に対する意識がだんだんと高まっていった。

●リーダーが日替わりだったり、練習メニューの選択があったことで常に新鮮な気持ちで取り組める。筋トレや音楽作りなど、この作品を創作するうえで基礎がちゃんとしてる時間になり良かった。

●みんなと仲を深めるきっかけになった。高校生だけの稽古のため、担当のリーダーがリーダーシップを取り、誰がなにをできるのか、なにができないのか、どうすればいいかを理解する機会になった。そこで仲間の新しい面を発見できた気がする。

●学校の授業や補習で参加できる時間が短い日があり、やりやりに気持ちが行かない現実と対峙し、苦しい期間でもあったが、その分仲間と葛藤した時間は大切なのだった。

4 稽古について

4

●時間が限られているため、最初は付いていくのに必死な毎日だった。日々の稽古で自分の課題が浮き彫りになり、たくさん考えて、悩んで、周りの人たちに助けられた。プロのスタッフが開る現場なので、より多くの成長と完成度が求められる緊張感のある稽古も多かったけど、忘れられないくらい楽しい時間だった。

●稽古前に振付助手の取組むためのウォーミングアップを受け、稽古に取り組むための身体づくりの必要性に改めて気付かされた。今回の舞台は、転換と音楽がたくさんあり、演技以外の稽古をすることも多く、本当に変化があった。稽古時間が足りないと感じたことがあった。だからその下さんの演出にみんなと一緒に責任を分かち、少しずつシーンを創り上げていくことが良い時間になっていったと思う。また、高校生同士の空気がとても良かったため、みんなが支え合い、助け合い、元気を分け与え合いながら舞台を創ることができた。

7 公演を終えて

7

●本当に濃い三日間だった。本番が始まる直前まで稽古をして、毎公演クオリティを上げるのは大変だった。本番前にリセット確認をし、みんなが円陣を組んで気持ちを整え、緊張を解いて、舞台に出るギリギリまで不安な気持ちでいる。しかし、舞台上にあるとそんなことを考える余裕はなく、あつという間にシーンが進んでいった。毎公演お客様が反応する場面が違い、その空気に飲まれないようにするのが大変だった。初日に二目は日二公演あり、少し疲労感があったが精神的な負担はあまり感じず、全日元気に過ごせた。なにより、全公演をみんなで無事に走り抜けたことが一番良かった。

●無事に終演することができてますは安心した。五公演は長いようで短くて、あつという間に終わった印象との公演も楽しく、つづきのシーンを大切に演じることができた。みんなが助け合えたのでやりきれたと思う。

●このような貴重な機会をもらえて感謝している。演劇を通して自分と向き合い、直す機会になり、この企画に参加する前の私は違う私になったと確信している。プロの方と関わる中で自分の知識や経験の浅さを知り、もっと吸収したいとモチベーションが上がった。そして、この企画を通して出会った人たちとの縁が宝物。いつかここで出会えた人たちとまた再会できる日まで頑張りたい。

●夢のような時間があつたという間に過ぎてしまった。仲間と出会い、つづきの舞台を創ることは素晴らしいことだと思う。友だちもできて、本当にこの企画に参加して良かった。

4

		稽古				
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	3	0	0	0
スタッフ	日時	4	2	0	0	0
キャスト	長さ回数	8	4	1	0	0
スタッフ	長さ回数	5	1	0	0	0
キャスト	内容	13	0	0	0	0
スタッフ	内容	5	1	0	0	0

●稽古初日から三日目にかけて、役を交代しながら台本の読み合わせをして配役が決まったため、たくさんの役をやらせても楽しかった。役になるんだったらドキドキした。セリフだけでなく舞台の転換や合唱、音楽もあり覚えることがたくさんあって大変だったけど、演出チームのサポートやみんなの協力や励ましがあって最後まで頑張れた。

●稽古前にアップの時間をわざわざ作ってくれた。一人一人のことを気にかけてくれて、手とり足りの稽古だった。しかし、高校生の中でそれは良い空気が無意識のうちに出てきてしまったのは良かったと思う。稽古を動画で残してくれたので必ず見て把握すること、稽古で声が出るようにアップを行うなど、各自で意識を高めることがもつと必要だったと思う。

●去年もこの企画に参加している中で、演出家による稽古の違いを感じて、すべてが新鮮で楽しかった。個別に稽古をしてもらえることもあり、たくさんのことを吸収できた。

●今まで経験したこと

6 高校生スタッフの仕事について

6

●とても充実していた。やりたいことがあると伝えると大半のことをやらせてもらえた。劇場スタッフの皆さんが声をかけてくれたり、演出チームから仕事を任せられることもあるので、やるべきがないということがほぼなかった。

●音楽隊として舞台上立つことができた。稽古開始後は何をやるのか分からなかったけど、稽古が始まると体験させてもらえることが多くあり、高学年が先輩として、高学年スタッフ同士も雰囲気良く作業ができた。

●イラストの仕事を担当したときは緊張したが、先輩がサポートしてくれて、先輩のアドバイスで提出するタイミングがスムーズに決まっていた。

6

		スタッフ仕事内容				
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	内容	6	0	0	0	0



2~4日に「高校生と創る演劇」 夢と現実 揺れる青春時代

豊橋のプラット



衣装を着ての話し合いのプラットで（提供）



Instagram
plat_koukousei



X (Twitter)
PLAT_koukousei

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。

高校生とプロが演劇上演 来月2~4日、とよは芸術劇場



高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景。豊橋市立小田原南小学校

種彦とよは芸術劇場PLAT（豊橋市立小田原南）のアーティストスペースで11月2~4日、高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」が上演される。2014年から同劇場が毎年、制作している舞台で、今年度は11作目。今年は高校生計10人がキャスト、スタッフとして参加し、プロの演出家やスタッフとともに舞台を上演する。今年上演するのは、劇作家・演出家・ダンサーのつとむあきとよの書き下ろし戯曲で、「オズの魔法使い」を題材に、豊橋市の豊橋大の高校生を描いた作品。公演は2、3日は午後1時、午後6時の2回上演。4日は午後1時のみ。一般2千円、5歳以下1千円、高校生以下500円。問い合わせ先はプラットチケットセンター（0532・39・3000）。

高校生の全力 見に来て



本校で今年度初めて上演された「オズの魔法使い」の練習風景。豊橋市立小田原南小学校

豊橋市立小田原南小学校の生徒たちが、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。生徒たちは、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。生徒たちは、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。



新聞記事 Newspaper article

豊橋市立小田原南小学校の生徒たちが、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。



28日に予定された話し合いのプラットで（提供）

「高校生と創る演劇」11作目 豊橋でさくから上演 オズの魔法使い 題材に

豊橋市立小田原南小学校の生徒たちが、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。

高校生とプロ舞台で共鳴



上演中。豊橋市立小田原南小学校の生徒たちとプロの俳優たち

豊橋市立小田原南小学校の生徒たちが、豊橋市立小田原南小学校のアーティストスペースで、豊橋市立小田原南小学校の高校生とプロが演劇「Journey Over The Rainbow」の練習風景を撮影した。

● 稽古はずっと楽しくて、相乗効果で学校も頑張ろうと思えた。稽古していた舞台に立ち上りた感じが良かった。ずっと稽古していた舞台に立ち上りた感じが良かった。ずっと稽古していた舞台に立ち上りた感じが良かった。

公演を終えて②

この企画に参加することで

当初どんなことを望み、何をしたいと思いましたが？ また、それらは実現されましたか？

● 自分の意図通り満足できず悔しかった。きつともっと上手くなれたと思う。もともと自分が向きな風を起せばたまたま作品のクオリティを上げられたかもしれない。今後は自分らしく努力をつけて、いつまでもそのときの自分一杯でいたい。自分の将来を考えるいい機会になった。

● 昨年度この企画に参加して多くのことを学んだので、今年はその経験を活かしたいと思いついた。昨年は演出家から違う視点で、新しい学びを得ることができた。いいなと喜んでた。稽古に取り組み姿勢、舞台を創ることや表現することの難しさ、お客様に届けること、演出家とキャストの関係など、今まで自分か考えたことのない視点の学びが多くあり、改めて演劇を創ることの厳しさを知ることができた。作品創りに知識と技術と経験が必要で、自分には全然足りていないと実感することが多かった。自分ももっと向き合いたいと思いついた。自分と性格の近い役柄だったこともあり、私は普段人からどのように見られているんだろう、この感情はどのように表現したんだろうと伝わるんだろうと考える日々だった。多くの人の関わりで年輪や学校が違う人たちが演劇をしたいと思いついた。スキルアップもできたと思う。高校演劇にも良さはあるがプロの背中を見て自分何ができるか本気で取り組める環境に身を置けたことが、今後の自分にとって大きなアドバンテージになったと思う。

7

公演を終えて					
	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	10	3	0	0	0
スタッフ	5	1	0	0	0
継続的にやりたい					
	継続的にやりたい	どちらか一方に絞りたい	どちらともいえない	始められない	
キャスト	8	4	1	0	
スタッフ	6	0	0	0	
継続しない方がいい					
	継続しない方がいい	どちらともいえない	継続しない方がいい		
キャスト	13	0	0		
スタッフ	6	0	0		

● お芝居について知りたかった。もっと上手になりたい。良い作品を創りたいと思いついた。参加する前よりお芝居について詳しくなり今後の糧になった。戯曲の読み方、セリフの意図を読み取ることを少し理解できたように思う。舞台上立つ楽しさと気持ちを体感できた。

8

今後、プラットに対する期待・要望等
ありましたらご自由に
書きください。

● この企画は自分を成長させてくれた貴重な経験だった。演劇に興味がある高校生には参加してほしい。続いてほしいと願っている。● これからもこの企画が続いていき、多くの高校生にとって貴重な経験、歴史として残してほしい。● 高校生が観劇しに行きやすい環境を作り続けてほしい。● この企画を継続してほしい。この企画のことをもっと多くの人に知ってもらいたい。これからもプラットが誰にとっても入りやすく過剰しやらず、豊橋に残り続ける素敵な劇場であることを願っている。● もしこの企画に参加していなかったら、自分がどんな高校生活を送っていたか、今では全く想像することができない。そのくらい自分にとって大きな経験であり、成長させてくれた。この企画で出会った人たちは、みんな素敵で魅力的で思いやりのあり、最高の演劇を創りたいという気持ちで溢れていた。みんな同じ気持ちで一つのことに取り組んだのは、私にとっては高校生と創る演劇が初めてだったかもしれない。本日に最高の時間を過ごすことができた。いつかまた、成長した姿でプラットに帰ってきたい。この経験は、ここではないどこかで何度も私を助けてくれると思う。

スタッフ

- 演出 下司尚美
- 演出助手 渡辺芳博
- 振付助手 政岡由衣子
- 美術協力 榎川寛子
- 音楽 下司尚美 渡辺芳博
- 音響 星野大輔
- 照明 小松裕規 (JUN WORKS)
- 衣装 高永美夏
- 舞台監督 筒井昭吾
- 舞台監督助手 みそくちあずみ
- 歌唱指導 新田恵
- 記録 伊藤華織
- 記録撮影 田中博之
- 宣伝美術 中川裕樹 (株エクララジ)
- 宣伝写真 萩原ヤスオ
- モニター マネージャー 笠井隆行
- 照明 池田俊晴
- 音響 佐原宏信
- 舞台 片桐健
- 芸術文化 プロデュース 矢作勝義
- 制作 長取奈保美
- 制作助手 佐和久(PLATキャスト)
- 音楽サポート 石田由子
- 票务 上栗陽子
- 協力 豊橋対策プラットフォーム、BAIT、K、KAT、神楽川芸術劇場、田村かおる、豊橋市役所環境部、収集業務課、豊橋市まちづくり図書館、豊橋市立豊南小学校、豊橋市立つばし丘小学校、エフエム豊橋「ティーズ」
- 主催 公益財団法人豊橋文化振興財団
- 企画 豊橋市
- 制作 豊橋市とよは芸術劇場PLAT
- 助成 文化庁芸術振興補助金、豊橋市、豊橋市文化振興補助金、豊橋市教育委員会、豊橋市教育文化センター、独立行政法人日本芸術文化振興会